

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析 河内長野市立加賀田中学校

学力調査の概要

国語

設問番号	学校の 平均正答率
1一	40.8% +
1二	87.3% +
1三	71.8% +
1四	40.8% +
2一	53.5% +
2二	77.5% -
2三	77.5% +
2四	22.5% -
3一	77.5% -
3二	94.4% +
3三	62.0% +
3四	16.9% -
4一	71.8% +
4二	31.0% +

概要

本校の全体の正答率が59%で、府52%、全国54.3%に対して大きく上回っている。設問別では、平均を下回っている回答もあるが、上回っている回答の方が多い。無回答の割合については、選択式では0.0%、短答式や記述式でも府や全国の平均を下回っており、解答しようとする意欲が見られる。

特に成果が見られた問題例

1四の問いは、府や全国に対して正答率が大きく上回り、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力がついていることが分かる。また、3二の正答率が高く、文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方を捉えることができていたといえる。

特に課題が見られた問題例

3四は、文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができるかどうかを問う問題となっているが、正答率が低く、無回答率も高かった。今後は、文章構成や展開の意図に着目し、その効果について理解を深めていく必要がある。

数学

設問番号	学校の 平均正答率
1	21.1% -
2	62.0% +
3	64.8% +
4	29.6% -
5	43.7% +
6 (1)	56.3% -
6 (2)	16.9% -
6 (3)	36.6% -
7 (1)	85.9% +
7 (2)	63.4% +
8 (1)	80.3% +
8 (2)	36.6% -
9 (1)	57.7% -
9 (2)	36.6% +
9 (3)	40.8% +

概要

本校の全体の正答率が49%で、府47%、全国48.3%と、平均値を微量ながら上回る結果となった。無回答の割合は選択式では0%、その他の問題においても平均値より少ない傾向にあり、問題を解こうとする意欲が見られる。

特に成果が見られた問題例

2の文字式で表す問題や5相対度数、7(1)(2) 確率についての正答率については府・全国平均より5~10%高く、基礎の定着が図られている。また、8(1)のグラフの読み取りに関しても、80%以上の正答率があり高い水準を示している。

特に課題が見られた問題例

1素数を選ぶ問題や4一次関数でyの増加量を求める問題では、府・全国平均より5~10%近く正答率が低かった。基礎的な知識・理解の定着が課題である。習熟度に応じた基礎学習を続けていく必要がある。また、6(2)6(3)数の証明や9(1)平行四辺形の証明など、数学的な表現を用いて説明することが苦手な生徒が多く、思考・判断を表現する学習活動を設定していかなければならない。

学力調査の概要

理科

公開問題 設問番号	学校の 平均正答率
1 (1)	50.7% -
1 (2)	50.7% +
1 (3)	50.7% +
1 (4)	30.1% +
1 (5)	38.4% -
1 (6)	86.3% +
5 (1)	98.6% +
5 (2)	42.5% +
8 (1)	49.3% +
8 (2)	17.8% -

概要

今年度から理科の調査はIRTが導入された。IRTとは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じ尺度で比較できる。生徒1人あたり公開問題10問と非公開問題16問が出題される。非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。個人の結果は5段階のIRTバンドで表示・返却される。5段階のIRTバンドは、各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき総合的に推定されるもので、学習評価で用いる評定とは異なる。公開問題10問について正誤状況をもとに分析している。

本校の全体の平均IRTスコアは520で、府487、全国503に対して上回っている (IRTスコアとは、500を基準にした得点)。短答式、記述式の無回答率が、府・全国の半数以下である。

特に成果が見られた問題例

1(3)や8(1)では、府や全国に対して正答率が大きく上回り、知識及び技能を関連付けて、課題について分析・解釈したり、推定する力がついていることが分かる。また、1(6)でも、正答率が府全国を大きく上回り、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現する力がついているといえる。

特に課題が見られた問題例

1(1)(5)では、府や全国に対して正答率が下回り、回路の電流・電圧と抵抗や熱量及び元素に関する知識・技能の定着不足が見られた。また、8(2)では、ボーリング調査の結果を使い、大地の変化についての時間的・空間的な見方を働かせて検討して表現するところに課題が見られた。今後は、知識・技能の定着を図りながら、理科の見方・考え方をより働かせながら学習を進めていく必要がある。

学習状況調査の概要

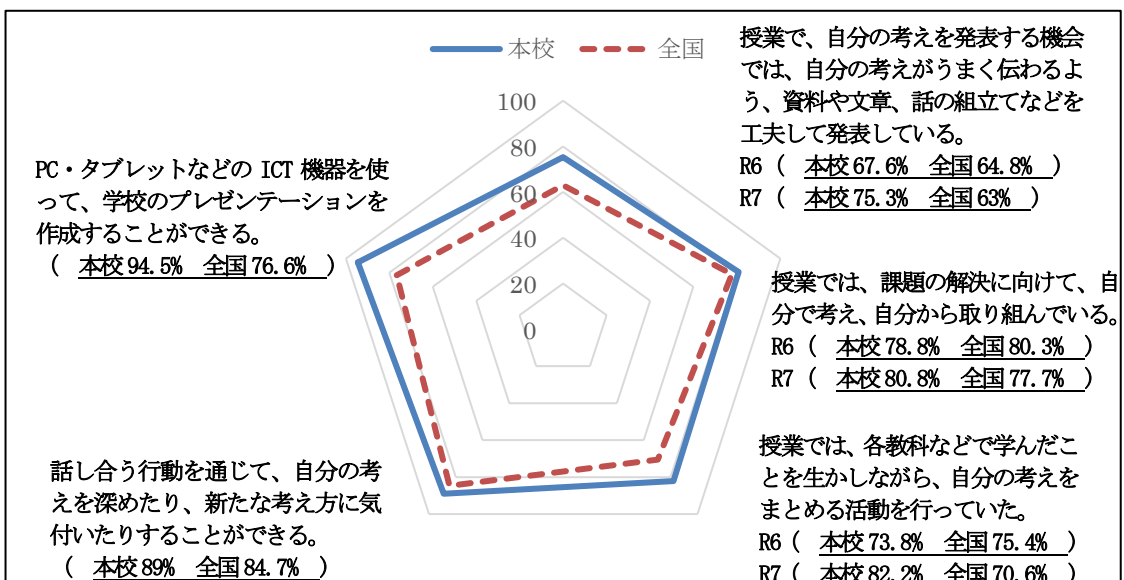
基本的な生活習慣を問う質問に対し、毎日同じくらいの時刻に寝ている(82.2%) 起きている(87.6%)、朝食を毎日食べている(94.5%)と、府や全国とくらべても同等か高い数値が多く、学校生活を充実させるための、健康な生活習慣が確立されている。

自分自身や学校での生活を問う質問について、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(71.2%)は、府や全国と比べてやや低い値となっているものの、先生はあなただのよいところを認めてくれていると思う(97%)、自分にはよいところがあると思う(91.8%)と、府や全国と比べるとかなり高く、数値から自己肯定感の高まりや教員との信頼関係が伺える。また、友達関係に満足している(94.5%)、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う(98.6%)、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う(91.8%)と、府や全国と比べ肯定的な回答が多く見られ、普段の学校生活や行事などの仲間づくりを通じて、友人関係において満足している生徒が多いことを読み取ることができる。

学習に関する質問では、学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(1時間以上が52%)と、府や全国と比べると短い学習時間となっている。土日などの休日に関しても学習時間が短い(とくに長時間との回答が少ない)、学力調査の結果から、このことはマイナスには働いていないようである。知識や技能を習得することに授業時間の多くを割くのではなく、協働的な学習の機会を増やしたことが影響している可能性がある。また、学習塾や家庭教師に教わっている生徒が多い(65.7%)。(学習に関連する各項目に関しては後述)

地域での暮らしに関する質問に対し、本校では地域と子どもとのかわり合いが年々増えている中で、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う(76.7%)と、昨年度よりも肯定的な回答は少なくなったものの、これまで通り府や全国よりも高い値となっている。

グラフ① 成果が見られたアンケート項目例



成果が見られたアンケート項目例

本校ではここ数年、「知識・技能を生かして、自分自身の考えをまとめ表現することができる生徒の育成」を、学力向上および授業改善のテーマとしてきた。今回は十分にその成果が出たといえる結果となった。

グラフ①にある通り、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した。課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。話し合う行動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるなど、すべての項目において、肯定的な回答が府や全国の平均を上回っている。

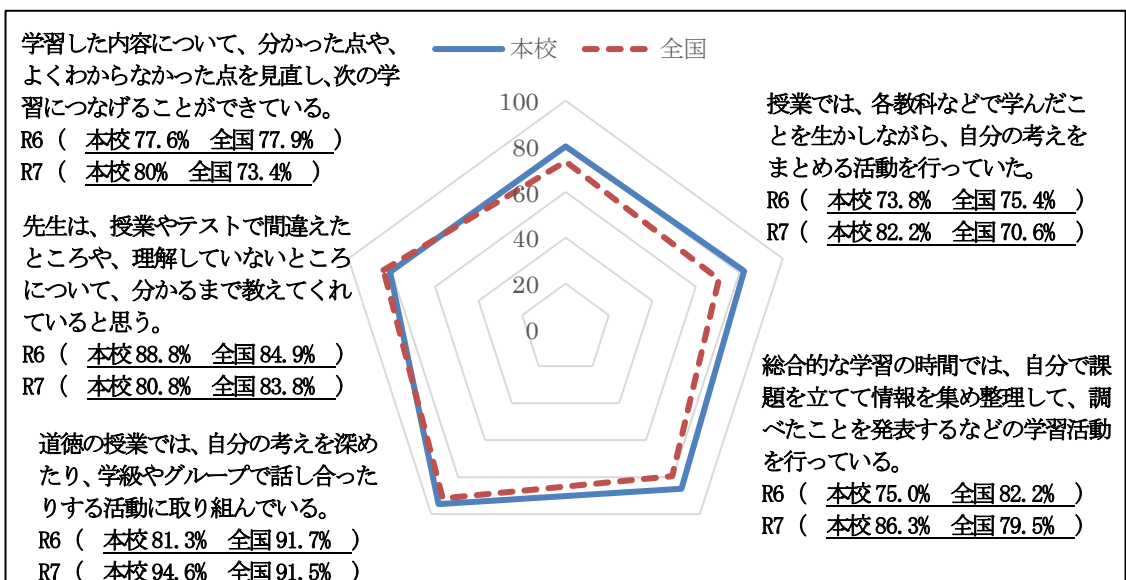
また、本校では授業に学習用端末を教員が工夫しながら積極的に活用しているが、生徒の ICT 機器の使用率やそれを活用することについても、肯定的な回答は府や全国の平均を大きく上回っている。

課題が見られたアンケート項目例

グラフ②にある通り、昨年度課題となっていた、分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習に生かす、各教科などで学んだことを生かして自分の考えをまとめたなどの、肯定的な回答は昨年度より増加した。また、総合的な学習の時間や道徳の時間についても、肯定的な回答が増加し、授業改善が進んでいることがわかる。

ただし、先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれているという回答は昨年度より低い結果となった。このことは、協働学習を行う機会が多くなり、生徒同士の対話を重視する授業形態が影響していることも考えられる。授業を行う教員側のファシリテーターとしての技量を高め、知識技能を効率的に獲得できるようにするなどの授業改善が必要となっている。

グラフ② 課題が見られたアンケート項目例



調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

文部科学省はこの全国学力・学習状況調査の目的を「全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る」こと、「学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立てる」こと、そして、「そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことと定義しています。そして、さらに「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。」と述べています。

以上を踏まえて、まずは今回の結果が子どもたちの学力全てを表しているわけではなく、ひとつの傾向として見て取れるという認識をお持ちいただければと思います。

今年度は特に学力については全教科（国・数・理）とも全国や府と比較して上回っていました。このことを見ても、子どもたちは学校での学習にある程度の理解を示していると言えます。国語と数学、理科のみの結果ではありますが、今まで本校や市全体の課題としてみられていた、「思考力・判断力・表現力」についても少しずつ改善してきているという結果にはなっています。本校の学力向上の研究主題についても「思考力・判断力・表現力」に重きを置いており、「対話を通じて自分の考えをまとめ、表現できる力を育てること」を目標とした授業づくりを教員は展開しています。

今回の調査科目の国語や数学、理科だけでなくすべての教科においてグループの中で対話したり、意見を交流させたり他者の意見や考えを共有することで思考に幅ができ、さらに広がりを見せることができるよう取り組んでいます。また、それらの取り組みに対してロイロノート、シンキングツールなどを活用した ICT 学習も推進しています。こうした取り組みの中から子どもたちの学力向上のために、教員研修や教材研究などによりさらなる授業改善に努めてまいります。

また、学校生活において、今回の結果からは昨年度まで本校生徒の課題であった自己肯定感の低さについても少しずつ改善されてきています。日本の若者全体の課題であるとも言われている「自己肯定感の低さ」は、周りの大人からの期待の量や質が高すぎるためともいわれています。やはり、必要なタイミングや納得のいく内容でほめてもらえることで子どもたちは大きく成長します。マイナス面だけを指摘するのではなく、子ども一人ひとりの持ち味や良さに教職員が気づき、ほめて伸ばしていけるよう努めてまいります。

そのためには子どもたちと向き合う時間を捻出し、子どもたちとのいい距離間をたもって、子どもたちに寄り添える教職員であることも、大切なことです。日々の様子に気を配り、気になったことについては複数の教職員で共有し、課題を解決していくサポートに務め、子どもたちがいきいきと活動できる居場所づくりに努めていきたいと思います。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

これから皆さんが生きていく世の中は、今まで以上にグローバル化が進み、様々な立場や様々な考え方の人たちとともに力を合わせていかなくてはならない世の中になっていくことが想定されています。そんな中、大切になっていくのはコミュニケーション力だと思います。コミュニケーション力を磨くためには、正しい知識を身に付け、それをうまく活用し、自分の考えを持ちながら、相手の考えを想像しつつ、様々な課題を克服していく必要があります。また、世の中の溢れる情報の中から正しい情報をしっかりと見極める判断力や人権感覚も備えなくてはなりません。

そうした力を鍛えるためには、普段から様々な社会事象に目をやり、自分の考えや意見を持ち、それを人に説明したり、また、他人の考えや意見を参考にし、自分の考えや意見を修正したり、自ら課題を発見し深く考える力が大切です。そこには必ずしも正しい答えがある保証はなく、また、正しい答えがいくつかあるかもしれません。

まずは本や新聞を読んだり、ニュースについて家の人や友だちと論じてみたりするのもいいでしょう。そうしているうちに知識が必要になり自分で調べてみる。また、さらに深く探求してみる。そういったことを繰り返しているうちにものごとを考える力がつき、表現する方法を知り、コミュニケーション力が身についてくるのだと思います。

今までの知識や学歴重視の社会から、経験やコミュニケーション重視の社会に転換している社会に対応できる力を身に付けてほしいです。

保護者のみなさまに協力していただきたいこと

2年前の話で、私が加賀田小学校にいたときですが、全校集会でパレスチナとイスラエルで起きている紛争の話をしました。低学年には少し難しい話かなと思いつつ、世の中で起きていることを知り、考えてもらいたい思いもありました。その中で児童に知っていることがないかを質問しました。すると2年生の女子児童から「ガザ」という言葉が出てきました。まさか2年生の口から「ガザ」と発せられるとは思っていませんでした。後でその児童の保護者から聞いたお話ですが、父親が世界や社会で起きている話を家庭で良く話題にしてくれるということでした。

このように、ご家庭の中で、新聞やテレビのニュース、ネットニュースでも構いません。世の中で起きていることを家族の中の話題にし、それを家族で話し合ってみるのはいかがでしょうか。それが少し難しいと感じておられるなら、学校での話でもいいと思います。

中学生になると、社会の出来事に関心をもって近い将来にやってくる自立に向けて、自分の意見を持ち、また、他者の意見を聴き、受け入れたり、それについて論じたりする能力、もしくは社会の間違ったことを正当かつ論理的に批判する能力、つまりは本当の「生きる力」といわれるものが身についていくのではないのでしょうか。